

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームジョイ
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島市堀津町横手一丁目36番地
記入者名 (管理者)	田中 鈴子
記入日	平成 19 年 12 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後もミーティングなどを通じて勉強の機会を設けたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	気軽に立ち寄っていただけるように、今後も気長に続けていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	老人クラブの方と定期的に交流が持てるようにしたい。行事へは引き続き参加していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今現在取り組みの事実がないため、今後の課題として進めたい。	○	地域行事への参加や、近隣の方とのふれあいの中で、何かできることがあれば取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングにおいて、職員同士が気さくに意見を言い合い、ひとつずつ改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の代表の方、民生委員、入居者家族代表の方、市役所の方が参加され、それぞれの意見を参考によりよいサービスを目指している。	○	今後も意見を参考にするとともに、みんなで一緒に取り組んでいけるようになるとよい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	便りの配布を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、勉強している。	○	必要のある方には、実践にむけて積極的に関わっていききたいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待であるのか、意識のあるなしに関わらず、職員同士で注意しあえている。	○	職員の心身状態にも気遣ってよりよいサービスを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を充分説明し、納得していただけていると思う。	○ 今後も続けていく。契約内容がわかりやすい冊子を作れたらよいと思う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満は、随時職員に話せるような関係ができています。また、今年の11月より介護相談員を受け入れた。	○ 介護相談員の報告を通し、サービスを見直していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人一人に「ジョイニュース」を発行し、生活の様子やケアプラン、健康状態について家族に報告している。概ね2ヶ月に1回。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に聞き取ったり、電話にて聞き取るようにしている。	○ どの家族でも気軽に意見を言えるよう、それぞれに合った手法で意見を聞いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで意見を聞いている。また、なにかあればその都度、意見を聞くようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の希望休を調節し、勤務表をつくっている。	○ 職員自身それぞれが必要勤務時間を把握し、互いに調整しあえるよう話し合っていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者都合の異動や離職は無い。代わるときにはスムーズに交代できるようにしている。	○ 出来る限り長く働き続けてもらえるよう環境改善に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順に認知症介護実践者研修を受けている。また、研修の案内があれば受講したい人を募っている。	○ 研修情報を集め、受講に適した職員へ進めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回のペースだが、他事業者が訪問することがある。また、市内グループホーム事業者の集まりに積極的に参加している。	○ 利害関係を越え、よりよいサービスのため切磋琢磨し、地域の福祉の発展のため、同業者同士でもっと交流していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休や休憩時間の非拘束性を確保している。悩みがあれば管理者や事業主が相談にのっている。何か問題があれば、ただ叱るのではなく、一緒に改善していくよう前向きな話し合いをもっている。	○ 職員のストレス対策についての研修を受講するなど、理解を深めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月の出勤簿や、実際に現場を見ることによって把握できている。関連資格情報やステップアップ研修の情報があれば知らせている。	○ 一人一人を尊重し、それぞれに合った情報を提供していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネージャーがその役割を担っている。本人が話すことが困難な場合には、観察することで補っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学时などの初回訪問時、ケアマネージャーが中心となって話を聴いている。入居に繋がらなくても親身に話を聴けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「空いているから即入居」ではなく、よく話を聴き、迅速に話し合って他サービスを薦めることもある。	○	他サービスのグループホームとの違い、利点、特徴への十分な理解を得て、説明できるようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族とともに来所していただき、入居者およびスタッフの輪に加わってお茶を飲んだり、入居者と将棋をされた方がいらっしゃった。	○	家族側は「すぐにでも…」という方が多いが、出来る限り入居前の本人来所ができるよう説明し、理解を得ていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒にお茶をしたり、テレビを見て感想を言い合ったり、家事のコツを聞いたり…と、実践できている。	○	一人一人ができること、得意なことをもっと発見していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にお願いしたいことは任せて、家族としての役割を果たしていただいている。	○	まだまだ説明が不足なく感じられることがあるので、時間をかけて説明し、理解が得られるよう努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に居室で話をしたり、お菓子を食ったり、自由に過ごしていただいている。	○	本人と家族のために、どのような支援をするとよいのか、それぞれのケースに応じて柔軟に対応していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人など、自由に訪れていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入って、協力して家事を行ったり、時には競い合って関わりあえているのではないかと思う。レクやホーム内行事では、全員参加している。	○	今以上に良い関係が築けるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族からの相談にその都度応じている。入院→退居というケースでは、退院にむけて今後の相談を受け、力になるように取り組んでいる。	○	多くのサービスについての理解を深め、より一層力になれるよう努力したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の話参考に、また、入居直後から本人のペースを細かく観察することで、把握しようとしている。「本人にとって何が一番よいか？」をミーティングで色々な案を話し合っている。	○	今後も充分検討し、本人本位のサービスに努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞き取ったり、毎日の会話から把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	大まかな暮らしぶりは日誌および介護記録に、体調変化は介護記録に、こまかな気付きはケア実施記録にそれぞれ記入している。	○	よりわかりやすい記録の仕方、その活用の仕方を職員全体で勉強していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望、普段の職員の気付きや意見を取り入れ、ケアプランを作っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3~6ヶ月ごとに見直しを行っているが、状態の変化や家族の新しい希望等があればその都度見直しを行っている。	○	家族の希望がもっと出やすいような仕組みが必要である。意見交換ノートのようなものを使い始めてみた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実施記録によって行っている。また、ミーティング時に意見交換も行っている。	○	ケア実施記録の充実が望まれる。職員誰もが記録できるよう根気よく指導していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今現在取り組みの事実がないため、今後の課題として進めたい。	○	ホームでできることは限られ、なかなか難しいが、「人が集まれるところ」を目指して努力していきたい。医療連携や看取り等についても慎重に検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練では消防の方と協力している。地域行事では民生委員の協力があり、とても助かった。	○	挨拶程度の機関や、交流を始めたばかりの老人クラブ等、まだまだ社会資源はあると思うので、声をかけることから始めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があればその準備がある。	○	他サービスを理解することで、このような支援ももっと自信を持ってできるのではないかと思う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要があれば相談しようと思う。	○	地域包括支援センターへは、毎月の便り配布で挨拶をしている。センター実施の研修等への参加を心がけたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診、歯科診療があり、納得をいただけている。	○	協力医以外の医師を望む場合の指針をまとめる必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	過去に実績はあるが、継続的な相談はしていない。	○	必要があれば専門医と連携をとっていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要があれば看護職員にその都度相談し、指示に従っている。また、協力医の看護師とも相談し、健康管理をしている。	○	医療連携について検討したい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	見舞いを兼ねて主治医や看護師と情報交換に赴いている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意見や希望、本人の状態を考慮し、協力医の意見を聞きつつ、職員で話し合っている。	○	入居時からの取り組みが求められる。重度化・看取りの方針を早急にまとめる必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族との話し合い、協力医の意見をふまえて今後の対応について相談しながら行っている。	○	早い段階で希望を聞くことや、状態が変わったときの希望を聞くこと、当ホームでできること・できないことを、これまでの実績をふまえてまとめていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	実際に見学に行ったり、そこの職員に話を聞いたりしている。		療養型病床、有料老人ホームの見学に行ってきた。また、居宅介護支援事業者にも話を聞き、どうしたらダメージを防げるか勉強しているところである。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応は、それぞれの入居者に応じて適切に行えている。個人記録はクリップファイルにし、必要の無いときは外から見えなくなっている。	○ 記録の取り扱いについて徹底する必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	見たいテレビ番組、着たい服を選んでいただくことなど、職員が会話の中で行っている。 ショッピングセンターやカフェなどへ出かけ、食べたいものを自分で選ぶ機会がある。 好きな飲み物を選ぶように喫茶時間を工夫した。	○ 選ぶ機会、選べる種類を出来る限り増やしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを尊重し、話しかけ、尋ねることで出来る限り、そのようにしている。 入浴時間のはばを広げた。	○ 柔軟に対応できるよう、職員の理解と協力を得られるよう繰り返し指導していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族による理容院の利用や、訪問理美容の利用、職員によるカット…と、希望に沿って行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に楽しく食事ができている。 出来る方には野菜の下ごしらえ、配膳の手伝い、食器洗いや食器拭きを一緒にしていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつは、尋ねたりして希望に沿った取り組みをしている。ほしいものを一緒に買いに出かけることもある。 飲酒や喫煙は、本人の希望に応じ、主治医と相談して対応している。	○ 一緒に買い物に出かけることは人員体制から困難なこともあるが、希望があれば出来る限り続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録をつけ、パターンを把握している。 尿意の無い方で可能な方は、昼間は布パンツにし、適宜トイレ誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時2人介助が必要な方は、2日に1回のペース。1人介助の方には、希望により毎日入浴ということもある。 入浴時間を、昼食後～というものから、喫茶後から夕食前までというものに幅を広げた。	○	時間の幅をやや広げることができたが、まだ職員全員が慣れていないため、不安定である。ミーティングで意見を出し合うことで、よりよい入浴支援ができるよう努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜勤日誌に状況を記録している。昼間はできるだけ活動するようこころがけている。	○	昼間のそれぞれの活動のバリエーションをふやしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のペースに合わせて職員が手伝いながら行っている。	○	「できない」「やりたくない」という返答への対応のしかた、そういう返答をされにくい持っていき方を職員間で話し合い、もっと生き生きと生活できるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をしている方は、一緒に買い物に行き、自分で買いたいものを買っている。	○	家族の理解・協力を得て、機会を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはテラスに出て日光浴やテラスで喫茶、体操をしている。近所に散歩にでかけている。	○	冬の間の工夫を考えていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「観覧車に生まれて初めて乗った」方がいらっしやった。また、家族と一緒に食事に出かけられたり、法事や結婚式等に参加されたりしている。	○	それぞれの希望を聞きだし、家族への協力の呼びかけをしたり、個別のケースに柔軟に対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に応じて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただいている。居間や居室で談話されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合には家族への説明をし、了承を得てベッド柵をしている場合もある。	○	身体拘束に関するより深い理解を徹底する必要があると思う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。居室に鍵はない。	○	鍵をかけないケアについて繰り返し確認していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	少し離れたところから見守ったり声かけをしたり等、心がけている。夜間は巡回し、物音がしたら廊下から伺い、見守りをしている。	○	部屋にいることを好む方には、希望を尊重し、おかしいなど感じたらその都度声をかけるようにしているが、全職員がそういう意識を持てるように指導していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針仕事や刃物を使う作業では、職員が隣について行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	声かけや見守り、観察して注意を払っている。ヒヤリハット報告のあった入居者については特に注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティングの中で看護職員により対応について勉強している。	○	まだ不安が残っているので定期的に行いたい。また、講習会等にも参加をよびかけたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を実施したり、地域の方に協力を呼びかけている。	○	現状に合わせて都度マニュアルを見直していきたい。何よりも日ごろの備えに心がけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	管理者、ケアマネージャーから家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変時は、看護職員に連絡をとり、適切な指示をもらっている。緊急・異常発生時の連絡方法を目立つ場所に掲示している。	○	徹底していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員により職員へ説明がなされ、理解を深めている。	○	一人一人の理解をもっと深めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動と水分摂取、食物繊維の多いメニューを工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き・うがいをし、介護記録にチェックしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録、水分記録で1週間の推移がわかるようになっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成し、日常的に手洗いうがいをしている。	○	マニュアルの統一が求められる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いや消毒を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには草花を植え、気軽に訪問してもらえるようにしている。	○	季節に応じてかざりをつけかえていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気、居心地よく暮らしていただけていると思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、テレビを分けることで思い思いに暮らせていると思う。昼のスペースで休憩される方もいらっしゃる。	○	決まった場所ばかりではなく、状況に応じて変化をもたせ、新鮮な気分になれることへも配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込んでいただき、それぞれの居室の雰囲気は違っている。	○	家族に協力を得て今後もそのようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時間の定期換気、気付いたときの随時換気を行っている。適切な温度設定で、空気が循環するようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて椅子を加工したり、車椅子自走の際角にぶつかっても安全なようにクッションをはったりしている。	○	今後も気付いた点には対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室、居室には分かるような掲示がしてあり、混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスにて、体操や喫茶、外気浴をしている。また、夏には家族も一緒にバーベキューを楽しんだ。	○	できることを考え、アイデアを出し合い、さらに活用できるようにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは自然が残る静かな環境に位置し、家庭的な雰囲気の中で、入居者の皆さんは落ち着いて過ごされています。駐車場の隅を利用して野菜や花を植え、入居者の皆さんと一緒に水やりや収穫をし、食卓に出しています。食事やおやつの中には、職員も入居者の輪に加わってゆっくりとした時間をもっています。とくに喫茶タイムでは、いくつかの種類から入居者さんに選んでもらい、好きなものを飲めるように工夫しました。

必ずしも『皆で一緒に何かをする』のではなく、それぞれの希望に沿ってその場に合った支援をしています。誕生日会やクリスマス会、バーベキューなどのホーム内行事では、誘い合って入居者の皆さんはもちろん、入居者ご家族様も参加されています。

入居者さんの生活を管理するのではなく、一緒に生活していくことを念頭に日々を送っています。一人一人の入居者さん、そして若い職員から熟練のスタッフまで、色んな個性があり、それぞれが役割をもち、互いに認め合って生活を営んでいきたいと思っています。